

先週の説教要旨

『すべての民の祈りの家』井上隆晶牧師
イザヤ 56 : 1~8、使徒言行録 3 : 1~8

❶【神があえて苦しみを与えられる理由】バビロン捕囚は70年間続きました。70年と言えば人のほぼ一生ですから、バビロンでの生活基盤がもう出来てしまっています。それをすべて捨ててエルサレムに帰るというのは、よっぽどの勇氣と信仰がなければできない事です。ですから皆が帰ったのではなく、一部の民だけが帰ったようです。そしてペルシャに残った民が、聖書の信仰を広めたのです。その伝道が、イエス様が降誕した時、東方からメシアを拝むために来た学者につながっているのです。さて、帰ってきた民は神殿を再建したのですが、粗末なものであり、土地は荒れており、生活はとても苦しかったようです。帰りさえすれば何とかなるといふ彼らの希望は無残にも打ち砕かれてしまいました。彼らの信仰は危機に瀕していたのです。そうした中で書かれたのが旧約聖書の中の律法の書だそうです。京都のお坊さんが「今年は暑かったので紅葉が美しくありません。紅葉というのは昼と夜の寒暖差が激しいと美しくなります。自然というのは良くしたもので、苦しみがあると美しいものを生み出します。火山があるから温泉もあるわけです。」と言われました。イスラエルの民も同じです。バビロンにいても苦しみ、エルサレムに帰ってきてても苦しみが待っており、神様はイスラエルになかなか平安を与えてくれません。私たちも同じです。でもそれが実は、信仰を生み出すための神の計画だったのだと思います。祈らないとやっていけない、生きて行けない状況にいつも追い込むという事です。なぜなら神は苦しみだけではなく、その中に必ず宝を入

れて与えて下さるのです。苦しんだ人は必ず、何かの美しい実を残すのです。

❷【新しいイスラエルの民の誕生】律法が書かれるようになると、異邦人や宦官といったような人たちが差別をされるようになってきました。そんな希望を失う彼らにイザヤは神の言葉を告げます。「主はこう言われる。正義を守り、恵みの業を行え。わたしの救いが実現し、わたしの恵みの業が現れるのは間近い。」(イザヤ 56:1) 諦めないで正義を行い、恵みの業を行い続けなさいと言うのです。具体的には「安息日を守り、それを汚さない」ことと、「悪事に手をつけないように自戒する」ことです。今の私たちなら、礼拝を守り、キリストの教えを守りなさいということです。3節にはもっと詳しく「主のもとに集まってきた異邦人は言うな。主はご自分の民とわたしを区別される、と。宦官も言うな。見よ、わたしは枯れ木にすぎない、と。」と書かれています。ここで言われているのはユダヤ人でも、異邦人でも、宦官でも、つまり、どんな人であっても、安息日を守って礼拝し、神の望まれることを行い、神の教えを守るならば、神に受け入れられ、その祈りは聞かれ、その名も記憶されると言うのです。大事なことは神に従うことです。神様はここで新しいイスラエルの民を生み出そうとされているのです。もともと「イスラエル」というのは民族の名前ではなく、神を信じる信仰者の名前です。ですから私たち教会は「新しいイスラエル」と呼ばれるのです。そしてこの後に有名な言葉が出て来ます。「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。」(イザヤ 56 : 7) 神の家とは、神殿であり教会です。教会は神を敬い、神に従おうとするすべての人の祈りの家であって、神はご自分に従うどんな人の祈りも聞いて下さるのです。

❸【キリストだけを頼ろう】^

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日 教会設立 2001 年 12 月 2 日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

E メールアドレス : miyakoch@eagle.ocn.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上 隆 晶

2025年10月26日 No.1843



《姦淫の場で捕らえられた女》

都島教会の 2025 年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなしい。」(詩編 127 : 1)

2025 年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 28 名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 信徒の交わりを大切にします。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。